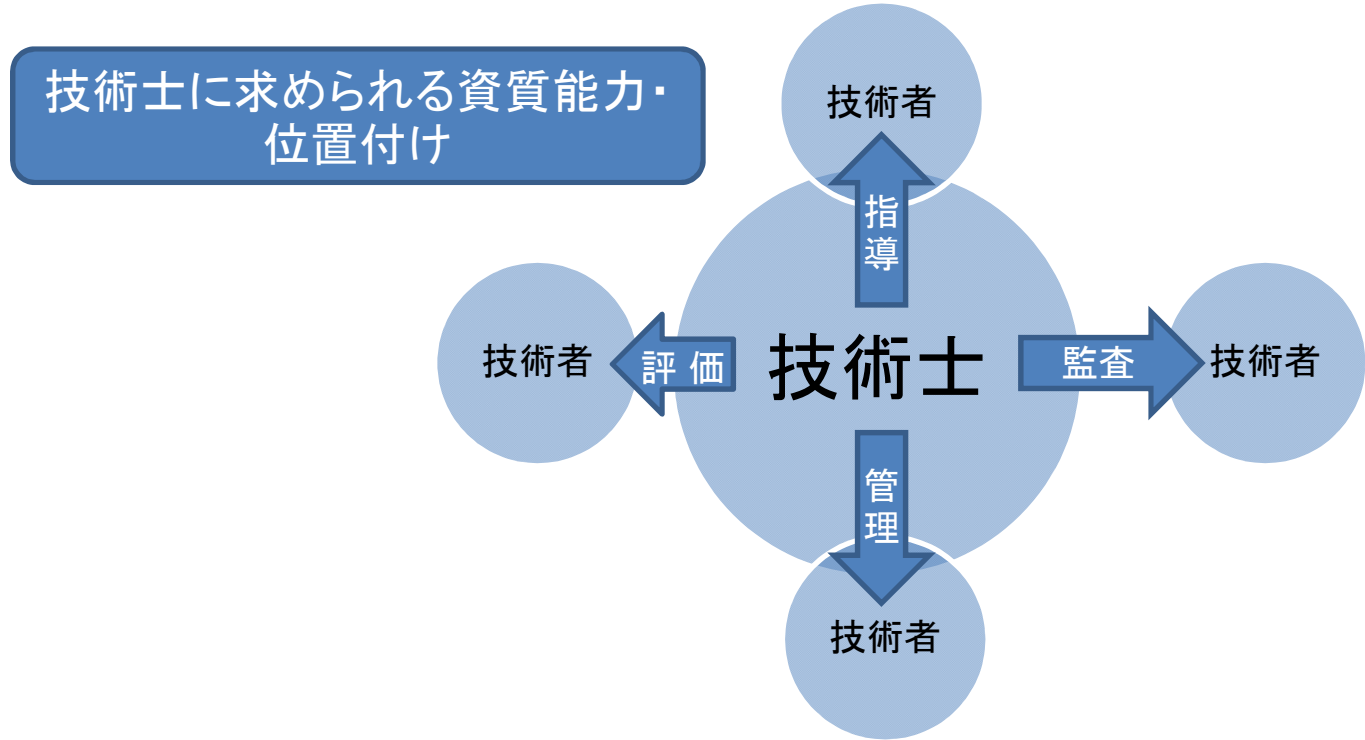


技術士制度のイメージ(現在案)



技術士

複合的な技術問題解決能力 大局的ふかん能力 幅広い教養 リスクマネジメント	自律的判断力 技術者 問題発見能力 問題解決能力 固有技術 応用能力	技術者倫理 高度な応用能力 国際感覚 指導力
--	---	---------------------------------

技術士試験

【第一次試験】

- ・大学等の高等教育機関で身に付けた技術や知識を確認することを目的とした試験
- ・「予備試験」「検定試験」のような位置付け
- ・年間複数回受験
- ・JABEE認定課程の修了生でない者で、工学系学部等の卒業者に対しては、受験科目の簡便化

総合技術監理部門

- ・20技術部門の上位に置く部門として位置付け
- ・20技術部門取得後に、一定のCPDを経て、総合技術監理部門を取得
- ・総合技術監理部門で取得すべき内容
(例)
 - ・現行の5事項(安全管理、社会環境との調和、経済性(品質、コスト及び生産性)、情報管理、人的資源管理)
 - ・工程管理
 - ・リスク管理、リスクコミュニケーション能力
 - ・国際感覚

技術部門・選択科目

- ・現在の科学技術・イノベーション推進による産業・社会の諸課題は、複数の専門領域の技術・知見を融合しないと解決できなくなっているため、技術部門・選択科目の再編成を行う
(例)
 - ・定期的な見直し: 10年ごとの見直し
 - ・20技術部門 → 5程度の大くりの技術部門
 - ・96選択科目 → 1部門において4科目程度

CPD

- ・キャリア形成に応じて、最新の科学技術、関係法令、国際感覚、環境、安全等を体系的に修得
- ・一方的な受講にとどまらず、双方向的な議論、論文作成など、積極的・能動的な取組を促す内容
- ・年間で一定時間の受講を努力義務として課す
(cf.APECエンジニアは、更新期間の5年間に250CPD時間が必要)
- ・受講機会の拡大、均等化
- ・CPD登録システムの改善
- ・CPD実施状況を把握できるシステムの構築

普及拡大・活用促進

【技術士資格の位置付け】

- ・技術者としての技術力(技術・知識・経験・応用能力等)を客観的に確認する尺度
- ・業務の相手先(コンサルタント業務のクライアント等)からの信用力を得る手段
- ・企業等管理職の登用・昇格試験で活用
- ・自己の実績回顧・知識整理を経て、将来への業務発展の源
- ・技術者としてのスタート地点

【望ましい取得時期・年齢】

- ・一定の業務経験年数と責任ある立場の者
(例) ・主任(30～35歳)、係長(35～40歳)
 - ・課長(40～45歳)
 - ・管理職(42歳程度)

【女性技術者】

- ・女性技術者に対する技術士資格の取得促進

【ベテラン技術者】

- ・ベテラン技術者に対する技術士試験受験の負担軽減(例:試験の免除科目の設定)

国際的通用性

- ・IEAのGA&PCを、技術士制度において具現化

技術者教育(大学等教育)

「リベラルアーツ」(一般教養教育)の拡充に加え、例えば、以下のような実践性の高い教育内容を積極的に導入

- ・数学等の基礎教育 及び 実験、実習、演習
- ・デザイン教育
- ・卒業前6か月程度の企業実学体験(インターンシップ)
- ・技術士による、「技術士」「技術者のキャリア形成」等をテーマとした授業

(大学等の高等教育機関)

- ・卒業後も技術士試験を受験するまで、大学と大学技術士会がフォロー

(技術士試験の受験促進方策)

- ・大学出身技術士や企業内技術士と、大学の教員や学生との交流の場を創出

技術者のキャリア形成イメージ

・大学等卒業後、技術者が技術や知識のレベルを継続的に向上させ、技術者魂を磨き、真に社会に役立つ技術者として成長するキャリア形成スキームの構築

(具体例)

大学等卒業後、適当な期間を経て技術士となり、その後研さんを重ねて上位の技術士(「総合技術士」となり、さらにその後継続的な研さんを経て、より高度な総合技術士へ

・技術者が技術士資格を取得するまでの学習を、大学が社会人向け公開講座等を通じて実施

